

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

歐州障害シーザンの総決算とも言えべきビッグイベント「チャルトナムエステイヴァル(3月11日～14日)」の開催まであと10日余りとなつた。ハーダルとステイバークチエイス、各々の2マイル路線と3マイル路線の頂点となるレースが、初日から4日目まで各開催日のメイン競走として組まれているが、今年に限つて言えばそうした各戦線のクライマックスとなる競走以上に、ファンが大注目している一戦がある。初日に組まれた牝馬限定G2メアズハーダル(芝20F)がそのレースで、ブックメーカー各社が発売しているメアズハーダルへ向けた前売りで断然の1番人気に推されているクヴェガ(牝10、父口バニデシャン)が、今月のこのコラムの主役である。

仏国で障害戦に6勝したヴエガカルトルの5番仔として、04年4月11日に仏国で生まれたクヴェガ。父口バンデシャン(その父ガルデロワイヤル)も仏国で障害を走った馬で、成績は特筆すべきものではなかつたが、3つ年上の兄口バンデプレが障害用種牡馬として成功していたことで、ロバンデシャンも種牡馬として供用されたことになつた。クヴェガ以外にも、昨季のG1パンチエスタウンGCなど3つのG1を制したサーデシャンらを出しているおり、弟口バンデシャンもまた種牡馬としては成功していると言えよう。

仏国で障害戦に6勝したヴエガカルトルの5番仔として、04年4月11日に仏国で生まれたクヴェガ。父口バンデシャン(その父ガルデロワイヤル)も仏国で障害を走った馬で、成績は特筆すべきものではなかつたが、3つ年上の兄口バンデプレが障害用種牡馬として成功していたことで、ロバンデシャンも種牡馬として供用されることになつた。クヴェガ以外にも、昨季のG1パンチエスタウンGCなど3つのG1を制したサーデシャンらを出しているおり、弟口バンデシャンもまた種牡馬としては成功していると言えよう。

クヴェガはB・ワトリガンの管理馬として3歳5月にナショナルハントフラットでデビュー。同年9月に4戦目となつたヴィシーの未勝利戦で初勝利を挙げたのを皮切りに、ナショナルハントフラットを3連勝することになった。だがクヴェガが本格化したのは、4歳を迎えて愛国の伯楽W・マリンズの厩舎に移籍し、ハーダルを飛びはじめてからで、パンチエスタウンとゴウランパークのハーダル戦を連勝。次走パンチエスタウンのG1チャンピオン4歳アズハーダル(芝20F)がそのレースで、ブックメーカー各社が発売しているメアズハーダルへ向けた前売りで断然の1番人気に推されているクヴェガ(牝10、父口バンデシャン)が、今月のこのコラムの主役である。

初出場となつた翌シーズン(09年)のチャルトナムエステイヴァルで、クヴェガはG2メアズハーダルに優勝。これがハーダル転向6戦目にして得たクヴェガの初重賞だつたのだが、同時にこれが、クヴェガ伝説の幕開けとなつた。以降13年まで、クヴェガはG2メアズハーダルを5連覇することになつたのだ。しかも、2度目の優勝となつた10年3月のG2メアズハーダル以降、今日までクヴェガは負けなしの8連勝を飾つてゐるのである。

障害競馬が平地競馬と等しく盛んな歐州には、当然のように障害の名馬もたくさん出現し、障害の偉大な記録も数多く生まっているのだが、チャルトナムエスティヴァルにおける同一競走の連勝記録は、1932年から36年にかけてゴールデンミラーが達成したG1ゴールドC5連覇だ。すなわち、クヴェガが今年もG2メアズハーダルを勝ち6連覇を達成すると、ゴールデンミラーの記録を78年振りに更新するフェスティヴァル開催における歴代新記録が誕生するのである。

平地で言えばロイヤルアスコットに相当する伝統と格式を誇る開催における、空前にしておそらくは絶後の記録が生まれようとしているのだ。ファンの関心が高いのも当然で、主催するチャルトナム競馬場は世論に後押しされるかたちで、例年だと初日の第6競走に組まれているG2メアズハーダルを、地上波の中継が行なわれている時間帯に施行するべく、プログラムを入れ替えて初日の第5競走に繰り上げる決定を下している。

出てくれば最大のライバルと目された、ハーダル転向後7戦7勝という気鋭の上り馬アーネーパワー(牝6、父シロッコ)が、初日のG1チャンピオンハーダルか3日目のG1ワールドハーダルに向かいそうで、普通に廻つてくれば快挙は達成されそうな気配だ。日本の皆様もぜひ、3月11日にチャルトナムで行なわれるG2メアズハーダルの結果にご注目いただきたい。